



強い日差しの中、上郷小学校から徒歩でやってきた2年生。農道に座り込んでの学習になりました。次々に出る質問に、丁寧に答える杉山代表

田植えや農業に興味を持たたかな

6月14日、山口市立上郷小学校2年生105人が、最新鋭の田植え機を使った田植えを見学してきました。

地元上郷地区の小学校とはいえ、今では農業に関係しない家庭が大半で、田植えや稲刈りを知らない子がほとんどです。

農事組合法人八方原の代表杉山均さんが、苗つくりや、田植え機の仕組みなどを説明しました。実際の田植え機の作業を見て、みんなびっくりしました。

当日は、日差しも強く、大変暑い日でしたが、児童はノートを広げて、学ん

だことを書き留めていました。

こうした農業見学は、各地でいろいろな方法で行われています。小規模の学校では児童も田植え機に同乗させてもらったことが新聞記事になっていました。また、伝統的な田植え祭りを復活させて児童も加わったイベントに作り上げたところもありました。

当地区では農産物の大事さなどの基本的なお話から、最新の田植えの実情をしつかり伝えることに重点を置いて

います。一人でも農業に興味を持つ子が増えると良いですね。



田植えの早朝、農道のわきに整然と並んだ苗箱。これから次々に植えられていく

活動報告と新年度の計画が承認

「八方原の環境を守る会」の定例総会



平成29年の八方原の環境を守る会の総会が6月9日、八方原公民館で行いました。

平成28年度の事業と収支報告、新年度の活動計画と予算案が提案され、いずれも原案の通り承認されました。

黒瀬代表は挨拶の中で「通算すると国などからの交付金が1800万円を超しており、その中の400万円が活動日当として支払われている。また長寿命化の事業では、水路の改良など多くの実績を上げている」と強調しました。

何より、積み重ねが大事ですね。



グレーチングをはぐって中の泥の除去(4班)

市道の除草に44名の住民が参加

毎年2回行っている市道と公有地の除草作業、今年度の第1回は6月25日に行われました。

この作業は、八方原自治会が市から委託を受けて市道森下八方原線と公有地の一部の除草を行うものです。

従来、6班がほぼ均等な距離を作業していましたが、作業量が不均衡になっている状況なので、作業区間の見直しを行いました。総延長は962メートルです。そのうちの南側500メートルを、二分割して5



崩れてきた石垣の石を慎重に水路から除去(2班)

班と6班が担当しました。4班は最上部分から200メートル、残りは1から3班が約100メートルずつ担当しま

した。

実施の結果、ほぼ同様の時間で終了しましたので、今回の作業分担の見直しは大きな問題はなかったようです。道路面の除草だけでなく、横断水路の中に堆積した泥の排出、道路わき水路の泥上げなども行いました。

今回は44名の参加がありました。これだけの距離を1時間以内で作業を終えられたのは、その人数と、チームワークでした。また、最もきつい作業になる公有地の除草は、特別チームで行い、きれいに仕上がりました。皆様、大変ご苦労様でした。

八方原の未来を語るための会が始まりました。当自治会には農業団体や消防組などは別にたくさん、事業所が活動しています。これらの事業所の方々には高額の自治会費を支払って頂

八方原の未来を考える会議が始まる

きながら、ご意見をいただく場がないことが数年来問題とされてきていました。

そこで、事業所の方々にも加わっていただいで、それぞれの立場からお話を聞かせていただくというのが目的の一つです。また、年に2回の総会では、

3月の役員人事、4月の予算、活動計画と内容がほぼ決まっています、新しい企画を練るような時間的余裕がないことも、問題でした。そこで、各団体の代表が集まって、今後のことを話し合いました。

そこで、話し合いの場に女性の参加がないこと、未来の担い手である子ども会の参加もないことなどが、指摘されました。

こうした問題をひとつずつ解決しながら、進めて参ります。

パワーフル!大型田植え機

年々大型化する農業機械ですが、今回から稼働を始めた8条植えの田植え機もその一つです。

植え付け部の横幅が250センチメートルちかくありますので、農道を移動する際は道幅いっぱいになっているように見えます。

植え付け速度も速いので、どんどん植え付けていきます。とはいえ、稲苗のセットや肥料の充填など、人手はどうしても必要です。



苗箱と肥料の積み込みが一番の重労働か